

(資料 3)

ハラル認証取得の現状や問題点

2015年1月

株式会社ハラルデベロップメントイン
ターナルジャパン

ハラルビジネスの現状

○ハラル認証とは

ハラル「halal」とは「合法的なもの」を意味します。「Halalan toyyiban」(ハラールトゥユイバン)という言葉の短縮形で日本語では「ハラルは体に良い」と訳すことができます。ムスリムが一目でその商品やサービスがムスリムに対して安全で安心なものか判断するための基準(ロゴ)です。



○インバウンドの状況

日本へのムスリム渡航者は増え続けています。特に2020年東京オリンピックで多数のムスリムが訪れるビジネスチャンスとして日本企業はハラルに対する見識を深めています。ムスリム向けの飲食業、食品、医薬品の整備が課題となっています。



○アウトバウンドの状況

現状では世界統一規格としてのハラル認証はありません。国によっては複数のハラル認証団体があり審査の内容もバラバラです。

マレーシアハラル(JAKIM)は世界で始めて政府がハラル認証を開始しました。HACCP、GMPの基準を元にした規格(マレーシアスタンダード)はムスリムだけでなく全消費者に安全、安心を伝える規格として知られ、最も統一規格に近いと言われています。



ハラル認証の問題点

○日本国内のハラル認証団体乱立の問題

外国人ムスリムはそのハラルロゴの内容(信憑性)が分かりません。ハラルロゴを掲げながら、ハラルで最も慎重になるべき食肉の屠畜基準が無い認証もある位です。悪例によっては日本でのハラルビジネスそのものの信頼を失う可能性があります。



○貿易の問題

前提としてハラル認証の取得は「任意」です。ハラル認証団体やコンサルタントは「認証発行」までは行いますがその後の「貿易」については協力しない(できない)団体の話も聞きます。日本企業にとっては、なじみの薄いムスリム経済圏との貿易は文化、制度の違いから有効な認証であっても、その後の営業支援まで含めた体制でのサポートが無ければ、「認証は取ったけどビジネスに繋がらなかった」企業が増え、日本でのハラルビジネスの衰退につながりかねません。



○ロゴの知名度の問題

苦労して取得したハラル認証(ロゴ)を各国のムスリムが知っているかは大きな問題です。例えば一般食品でハラル認証を取得して輸出できたとしても、一般消費者がその認証のロゴを知らなければ、店頭に並べることができても購入には至らないというケースも考えられます。

